

第23回 神奈川県移動性(モビリティ)向上委員会

新型コロナウイルス情勢下の 交通状況分析

- 前回の委員会での討議事項
- 新しい生活様式における交通情勢の変化
- 主要渋滞箇所のモニタリング・対策方針検討

令和3年2月26日

3 新型コロナウイルス情勢下の交通状況分析

3-1 前回の委員会での討議事項

- 前回の委員会では、「緊急事態宣言中の交通状況」を把握し、報告した。
- 今回の委員会では、緊急事態宣言の発令前後における交通情勢の変化を踏まえ、「新しい生活様式における今後の渋滞対策のあり方」を議論する。

■前回の委員会での討議内容

緊急事態宣言中の交通状況

- 交通量**は平日・休日ともに**減少**。一方、大型車交通量の減少量は小さい。
- 交通量の減少に伴い、**旅行速度も向上**。特に、幹線道路(国道・主要地方道等)で速度向上が顕著。また、交通事故件数も減少。

主要渋滞箇所のモニタリング結果

- 直轄国道における、主要渋滞箇所の**モニタリング基準を満たす箇所は99箇所中31箇所**。残りの68箇所は緊急事態宣言期間においても基準を満たさない。
- 主道路**となる直轄国道では**モニタリング基準を満たす箇所が多い**一方、**従道路**となる補助国道や県道では、未だに**モニタリング基準を下回る箇所が多い**。

■今回の委員会での報告・討議内容

新しい生活様式における交通情勢の変化

- コロナ前後での**交通情勢の変化**について報告
- 新しい生活様式における道路の利用状況の変化**の状況を討議

主要渋滞箇所のモニタリング・対策方針検討

- 県内直轄国道以外を含めた**主要渋滞箇所に関するモニタリング結果**を報告
- 緊急事態宣言下においてのみ**モニタリングの指標値を上回る箇所**について、**対策方針**を討議

3 新型コロナウイルス情勢下の交通状況分析

3-2 新しい生活様式における交通情勢の変化(継続的な分析)

- 緊急事態宣言下はゴールデンウィーク期間などの休日を中心に交通量・発生トリップ数が減少し、旅行速度が向上。これに伴い、通常時と比べモニタリング基準値を満たす箇所が増加している。
- 緊急事態宣言解除後は、徐々に交通量・発生トリップ数が増加し速度も低下している。特に、10月には観光地でも発生トリップ数が増加し、モニタリング基準値を満たす箇所は38箇所と緊急事態宣言中より減少した。

期間分け	緊急事態宣言期間前	宣言期間	緊急事態宣言期間後		
主な出来事		緊急事態宣言 (4/7~5/25)	Go To トラベルキャンペーン (7/22~、10/1~東京都追加、12/28~一時停止) お盆シルバーウィーク (H31平日)年間平均 (H31休日)年間平均		
県内交通量 <small>週単位・直轄トラカン設置箇所の平均値</small>					
県内期間別平均値 <small>出典:直轄トラカンデータ</small>	平日:32,719台/日 休日:30,169台/日	平日:30,393台/日 休日:23,996台/日	平日:33,551台/日 休日:31,470台/日 (参考:H31) 平日:33,971台/日 休日:32,652台/日		
県内旅行速度 <small>週単位・直轄トラカン設置箇所の平均値</small>					
県内期間別平均値 <small>出典:ETC2.0プローブ情報</small>	平日:29.4km/h 休日:30.3km/h	平日:31.5km/h 休日:34.8km/h	平日:28.3km/h 休日:28.6km/h (参考:H31) 平日:29.0km/h 休日:29.7km/h		
県内発生トリップ数 <small>出典:ETC2.0プローブ情報</small>	県全体	505万 (2/3~9)	417万 (4/13~19)	593万 (10/19~25)	(参考)ETC2.0普及率...7.2% 4輪車セットアップ台数551万台を 4輪車台数7,855万台で除した数値 箱根...トリップ発生点が 箱根町のトリップ 湘南鎌倉...トリップ発生点が 鎌倉市・藤沢市・ 茅ヶ崎市・平塚市・ 大磯町のトリップ
	内箱根	2.3万	1.7万	3.7万	
	内湘南鎌倉	34万	26万	42万	
モニタリングで基準値を満たす		93箇所		38箇所 (10/1~10/31)	(参考:H31) 30箇所

3 新型コロナウイルス情勢下の交通状況分析

3-2 新しい生活様式における交通情勢の変化(トリップ長分析(通勤))

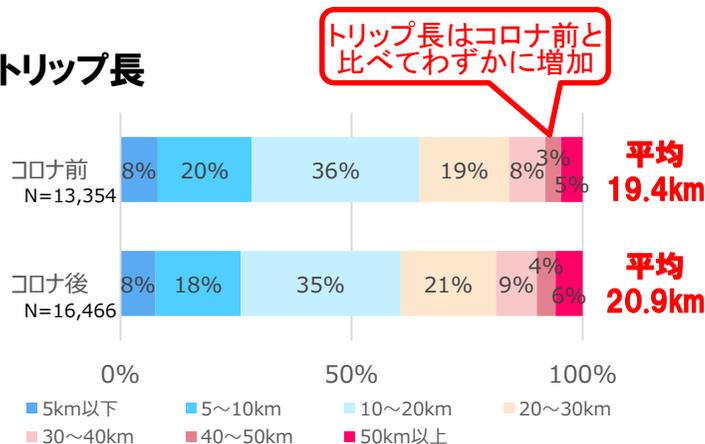
- 緊急事態宣言発令前後の通勤時の交通特性を把握するため、県内4箇所交通量・トリップ長を分析した。
- 比較的東京都に近い川崎市内における交通量を見ると、緊急事態宣言後は若干の増加傾向となっている。
- トリップ長別に分析を実施した結果、コロナによる緊急事態宣言後は10km以上の中・長距離トリップの割合が増加しており、平均トリップ長もわずかに増加している。
- 中・長距離トリップを中心に、自家用車への移動手段転換が生じていることが伺える。

国道246号 久地

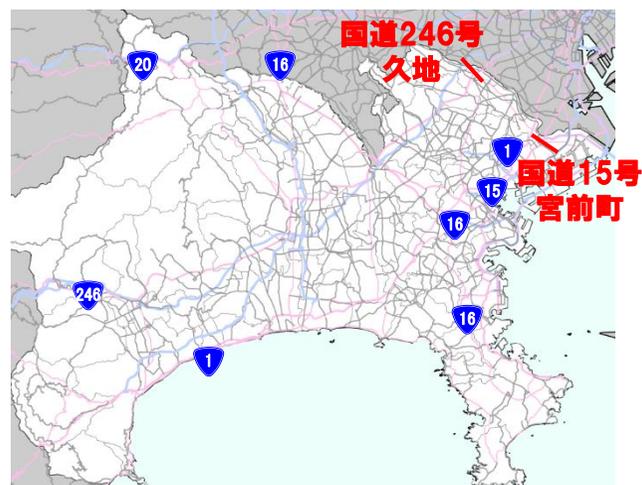
交通量の推移



トリップ長

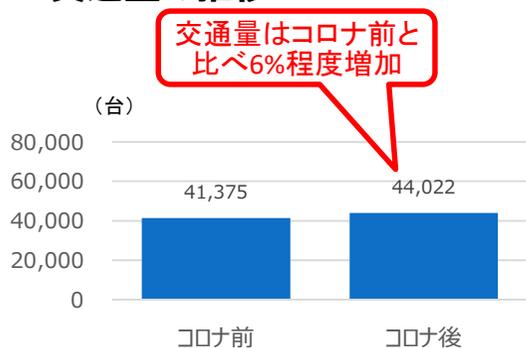


(参考)分析断面

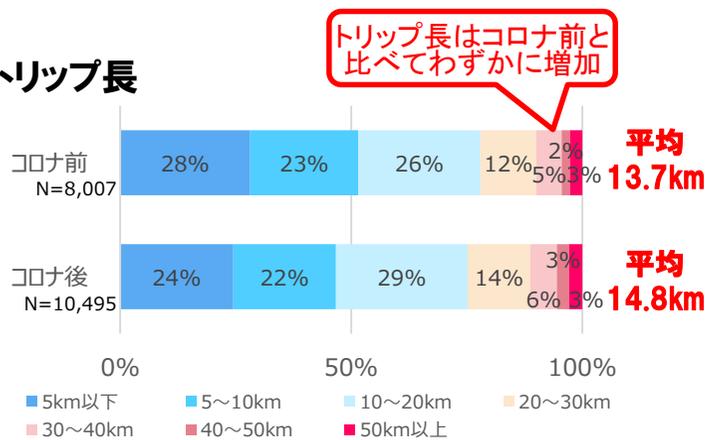


国道15号 宮前町

交通量の推移



トリップ長



出典:ETC2.0プローブ情報
 (車種:普通・小型及び用途:乗用のみを対象)
 直轄トラカンデータ
 分析時期:コロナ前R2.2.4-8 コロナ後R2.8.24-28

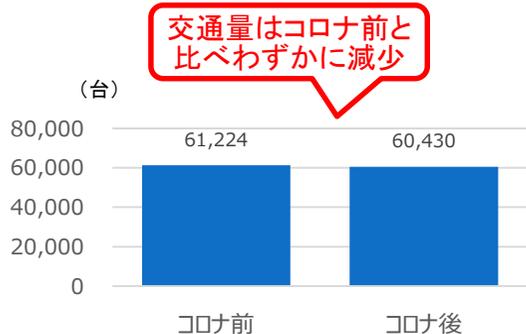
3 新型コロナウイルス情勢下の交通状況分析

3-2 新しい生活様式における交通情勢の変化(トリップ長分析(通勤))

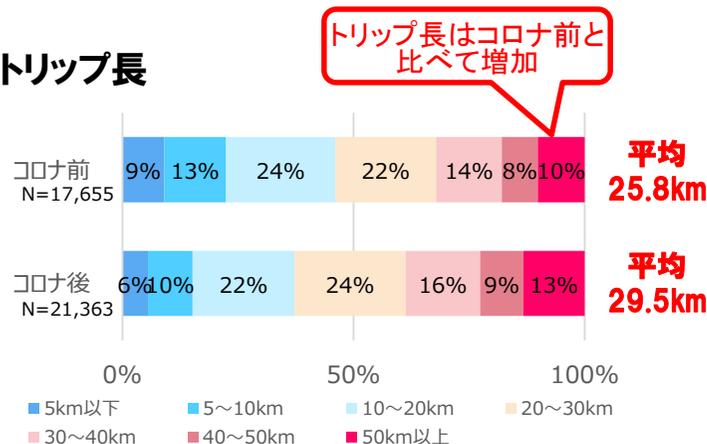
- 神奈川県中部における国道1号戸塚・国道246号船子における交通量は、緊急事態宣言後は大きな変化は生じていない。
- トリップ長別に分析を実施した結果、国道1号戸塚・国道246号船子断面ともに、緊急事態宣言後はトリップ長が増加する傾向にあった。中・長距離トリップを中心に、自家用車利用に転換したことがうかがえる。

国道1号 戸塚

交通量の推移



トリップ長

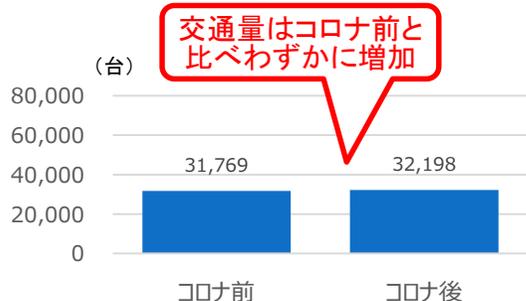


(参考)分析断面

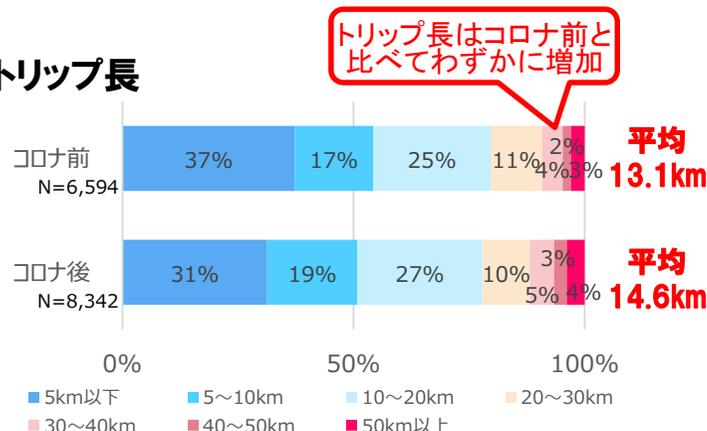


国道246号 船子

交通量の推移



トリップ長



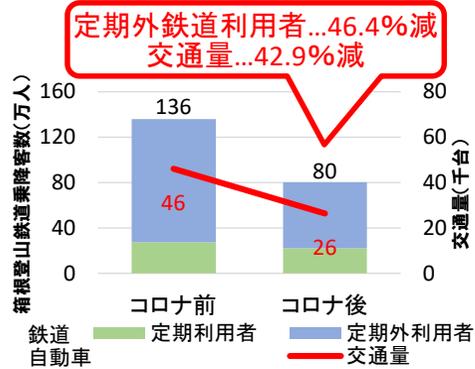
出典:ETC2.0プローブ情報
 (車種:普通・小型及び用途:乗用のみを対象)
 直轄トラカンデータ
 分析時期:コロナ前R2.2.4-8 コロナ後R2.8.24-28

3 新型コロナウイルス情勢下の交通状況分析

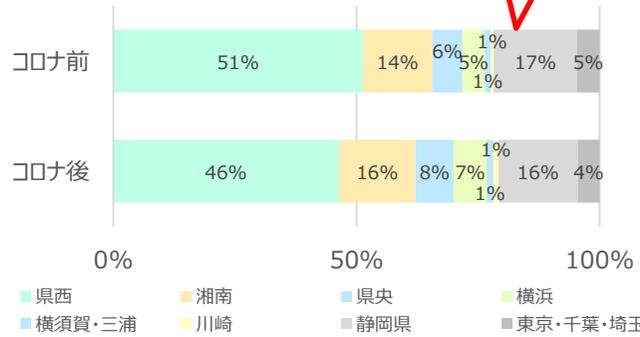
3-2 新しい生活様式における交通情勢の変化(OD分析(観光))

- 緊急事態宣言発令前後での観光地の交通特性を把握するため、県内主要観光地となる箱根地区・鎌倉地区において交通量・トリップ長を分析した。
- お盆時期の観光地の公共交通利用者は大きく減少。特に、公共交通の定期外鉄道利用者や箱根地区の自動車交通量等、観光客の割合が高いと考えられる交通は昨年同時期の約半数程度と大幅に減少している。
- 来訪車両の発着地は、箱根・湘南鎌倉いずれの地域ともに緊急事態宣言発令前後で大きな変化は生じていない。そのため、箱根地区のお盆時期では県内外を含め各地からの観光客数が減少したものと想定される。

箱根地域(国道1号 入生田)



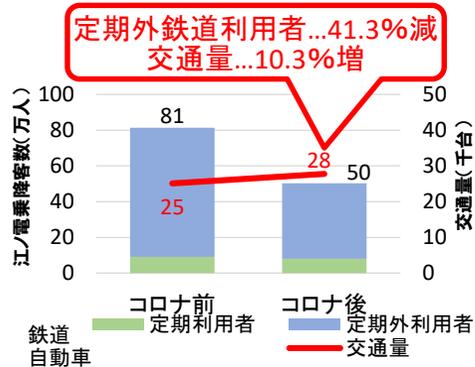
車両発着地



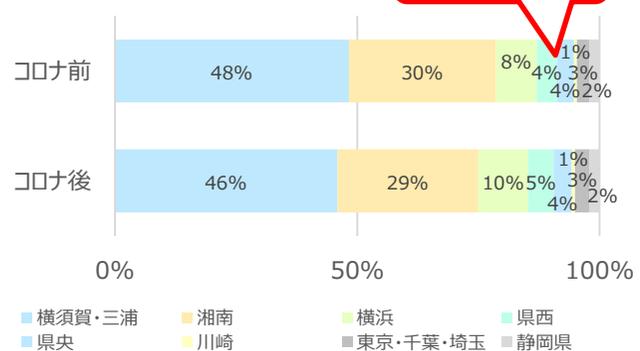
(参考)分析断面・地域区分



湘南鎌倉地域(国道135号 七里ヶ浜)



車両発着地

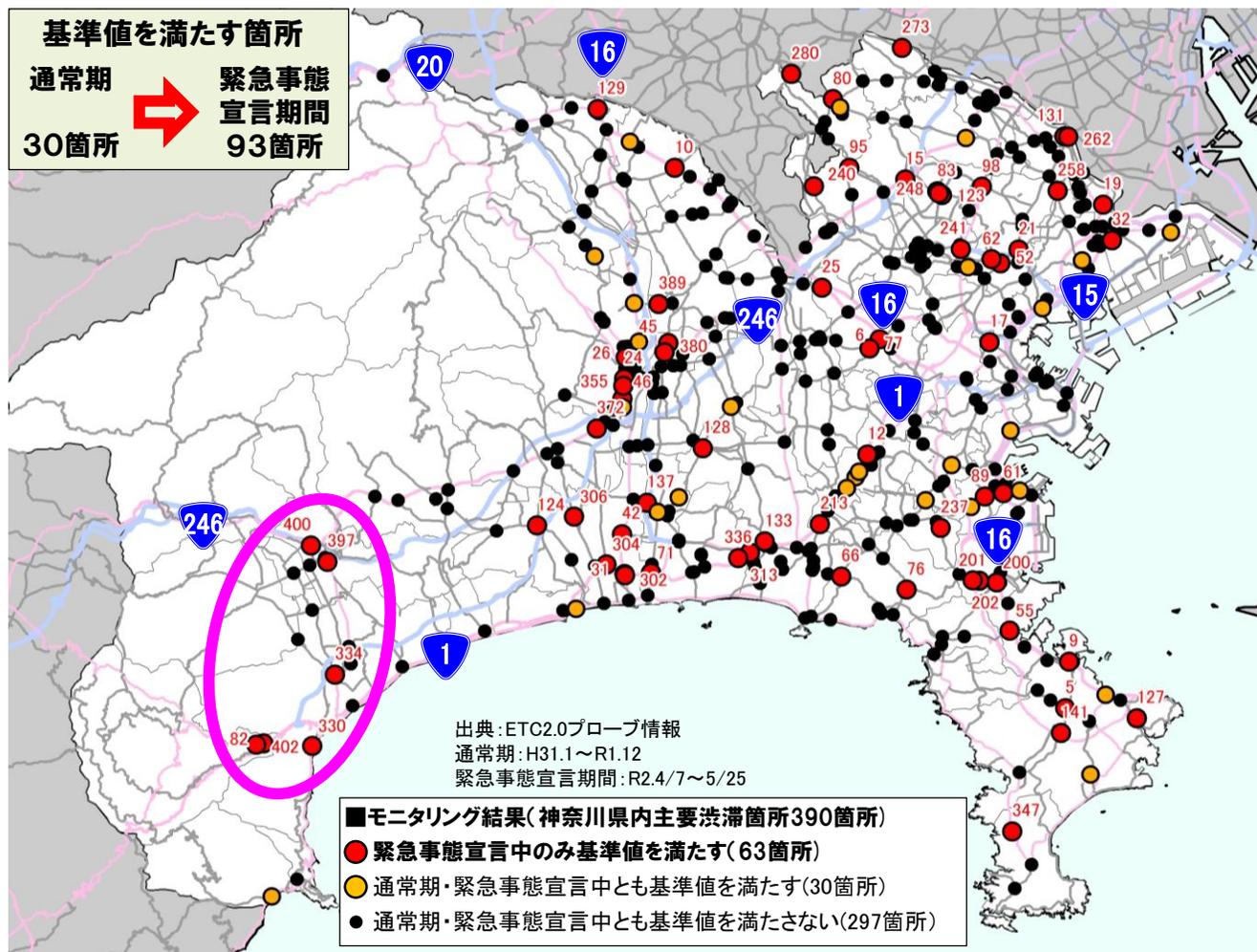


出典:ETC2.0プローブ情報
(車種:普通・小型及び用途:乗用のみを対象)
直轄トラカンデータ(国道1号 入生田断面)
県警トラカンデータ(国道135号 七里ヶ浜断面)
箱根登山鉄道・江ノ島電鉄提供資料
分析時期:コロナ前R1.8.10-18 コロナ後R2.8.8-16
※箱根登山鉄道利用者は
コロナ前R1.8・コロナ後R2.8の比較

3 新型コロナウイルス情勢下の交通状況分析

3-3 主要渋滞箇所のモニタリング・対策方針検討(モニタリング結果)

- 緊急事態宣言発令前後の交通状況の変化を踏まえ、緊急事態宣言中の主要渋滞箇所モニタリングを実施した。
- モニタリング基準値を満たす箇所は、緊急事態宣言中は93箇所と、通常期に比べ63箇所増加した。
- 基準値を満たす箇所の割合は観光地である箱根を含む県西地域などで多い傾向にある一方、東京都に近い川崎・県央地域では基準を満たす箇所は少ない傾向となった。



■地域別 主要渋滞箇所モニタリング結果

地区名	箇所数	基準値を満たす	割合
横浜	135	34	25.2%
川崎	55	11	20.0%
横須賀三浦	32	10	31.3%
県央	85	15	17.6%
湘南	65	16	24.6%
県西	18	7	38.9%
合計	390	93	23.8%

■(参考) 県内地域分け



モニタリング指標...
 指標①: 平日昼間12時間の平均旅行速度(基準値20km/h)
 指標②: 平日昼間12時間のピーク時旅行速度(基準値10km/h)
 指標③: 休日5%マイル旅行速度(基準値10km/h)

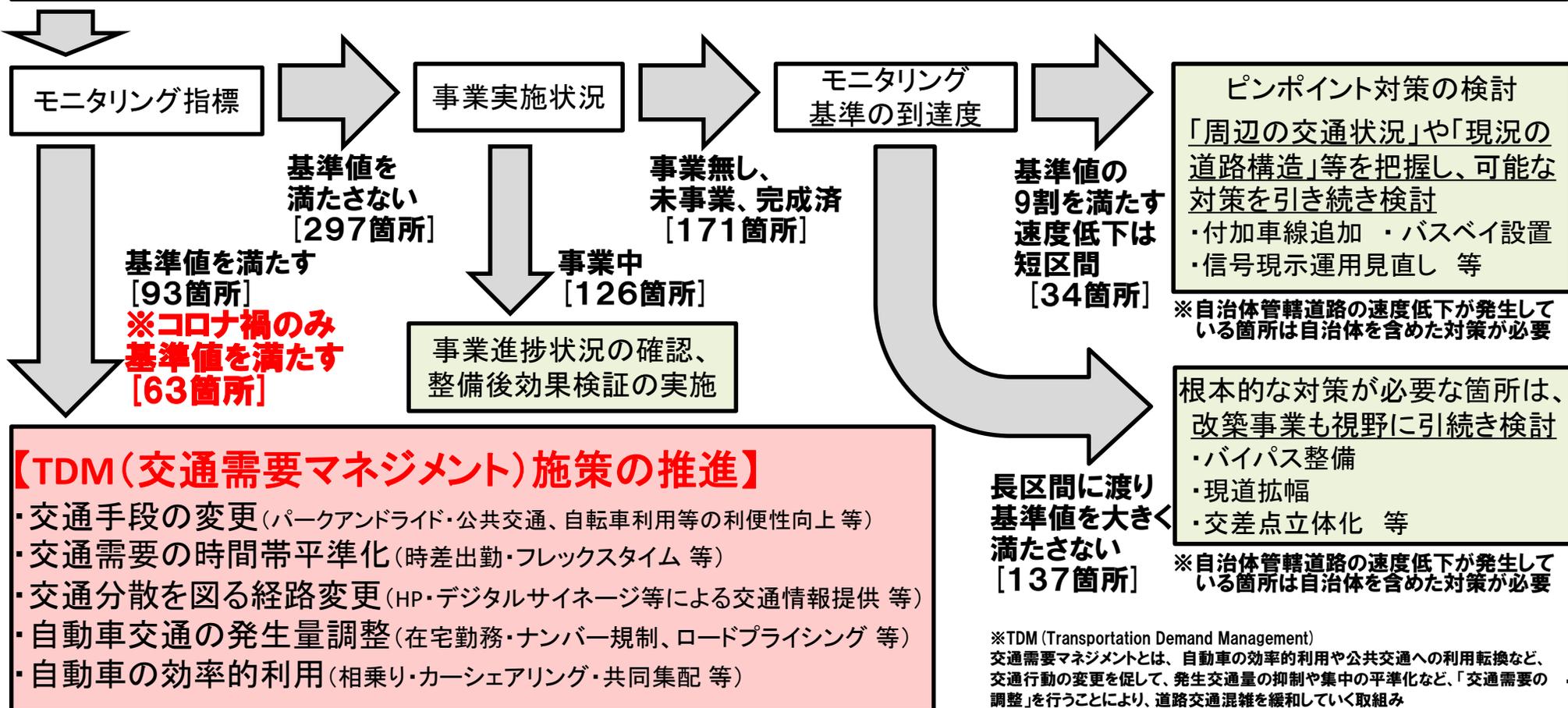
3 新型コロナウイルス情勢下の交通状況分析

3-3 主要渋滞箇所のモニタリング・対策方針検討(対策検討フロー)

○主要渋滞箇所390箇所について、緊急事態宣言中のモニタリング結果をもとに対応方針を検討した。

コロナ禍において交通量が減少

主要渋滞箇所(直轄99箇所・その他291箇所の計390箇所)



3 新型コロナウイルス情勢下の交通状況分析

3-3 主要渋滞箇所のモニタリング・対策方針検討(参考:TDM施策実施項目)

- 箱根DMO(一般社団法人箱根町観光協会)では2021年1月25日より、箱根の交通情報を一元化し、混雑状況の配信を開始した。(神奈川県「混雑緩和に係る新たな観光モデル創出推進事業」として取り組み)
- 「渋滞が発生する国道1号の渋滞情報や大涌谷駐車場の満空情報・待ち時間などの発信」「公共交通2社の運行情報表示デザインの統一化・視認性の向上」「箱根DMOが運営する観光サイトやサイネージ上での情報発信」を通じ、来訪者の渋滞回避・密を回避し混雑の少ないルートへ回遊促進を図ることを目的としている。

■バスロケを利用した所要時間の情報発信概要

(実施背景)

- ・箱根エリアの宮ノ下～箱根湯本間(国道1号)は特に渋滞が発生しやすい

(概要)

- ・路線バスのバスロケーションシステムを活用して、所要時間情報を発信
- ・公共交通機関および一般道路の代替ルート、周辺のスポット情報を表示



■大涌谷駐車場の満空情報・待ち時間の情報発信概要

(実施背景)

- ・県道734号線大涌谷三叉路～大涌谷園地にかけ、慢性的な渋滞・駐車場の許容オーバーが発生

(概要)

- ・満空表示システムの導入
- ・WEB上での情報発信
- ・箱根ロープウェイの各駅で駐車場情報を表示し、箱根ロープウェイへ乗り換えを促進



- ・呼びかけ対象:箱根地域を来訪した観光客
- ・呼びかけ項目:公共交通機関や迂回ルートの利用、待機時間の有効活用
- ・呼びかけ効果:混雑道路・混雑時間帯の回避立ち寄りスポットの来客増

- ・呼びかけ対象:大涌谷を来訪した観光客
- ・呼びかけ項目:混雑状況提示で利用時間帯の変更、代替ルートの利用
- ・呼びかけ効果:駐車場混雑緩和、待ち時間の不満緩和、公共交通利用の促進